

1 学年 前期 学習内容と評価規準

前期の学習内容と学校が評価をするにあたっての規準の例です。

※すべてこのように評価しているわけではありませんが、これを規準にあゆみを作成しております。

【知・技】…知識及び技能の評価

【思・判・表】…思考力、判断力、表現力等の評価

【態】…主体的に学習に取り組む態度の評価

教科	単元名・教材名	評価規準
国語	どうぞ よろしく ※はるがきた ※おはなしききたいな ※なんていおうかな	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。 【思・判・表】身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にしている。 【態】積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。
	こんな もの みつけたよ	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。
	うたに あわせて あいうえお ※声に出してよもう ※よくきいてはなそう	【知・技】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。 【態】進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。
	はなの みち ※ことばをさがそう ※としよかんへいこう	【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 【思・判・表】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 【態】興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。
	ぶんを つくろう ※かきとかぎ	【知・技】句点の打ち方を理解して文の中で使っている。文の中における主語と述語との関係に気づいている。 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。 【態】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
	あいうえおで あそぼう ※ねことねっこ ※わけをはなそう ※おばさんとおばあさん	【知・技】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。平仮名を読み、書いている。長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。 【態】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
	つぼみ	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 【思・判・表】事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【態】積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。
	おおきく なった	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。 【思・判・表】観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。 【態】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。
	おおきな かぶ	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 【思・判・表】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。
	はをへを つかおう	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 【思・判・表】語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 【態】進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。
	すきな こと、なあに	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。 【思・判・表】身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 【態】粘り強く伝えたいことや表し方を考え、これまでの学習をいかして自分が好きなものとその理由を紹介しようとしている。
	おむすび ころりん	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。 【思・判・表】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 【態】進んで昔話の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
	こんな ことが あったよ ※としよかんとなかよし	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。 【思・判・表】経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。 【態】積極的に出来事や経験を思い出し、これまでの学習をいかして日記に書こうとしている。
	やくそく ※こえをあわせてよもう ※みんなにしらせよう ※ことばをみつけよう	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 【思・判・表】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 【態】進んで登場人物の行動を確かめ、学習の見通しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。
書写	・しよしゃの やくそく ・じぶんの なまえを かこう ・もじ たんけんたい ・しよしゃ たいそう ・じを かく しせい ・えんぴつの もちかた ・いろいろな せんを かこう ・ひらがな「とめ」と「はらい」 ・「はね」 ・かきじゅん ・ひらがな「まがり」と「おれ」 ・「むすび」 ・じのかたち ・ことば ・しよしゃ ひろげたい①②	【知・技】 ・書写学習の前に、机上の整理、書くための準備運動、姿勢・筆記具の持ち方確かめを一連の流れを行うことができる。 ・自分の名前を書いたり、校内にある文字を探したりすることで、書写学習に対する関心を高めることができる。 ・進んで書写体操の四つの動きを理解し、学習課題に沿って書写体操を行おうとしている。 ・文字を書くときの姿勢と筆記具の持ち方を正しくして書いている。 ・点画の書き方（止め・払い・はね・曲がり・折れ・結び）に注意しながら、丁寧に書いている。 ・点画の書き方や文字の形、ます目の用紙・罫線の用紙の書き方、横書きの書き方、数字の書き方に注意しながら、筆順に従って丁寧に書いている。 ・点画の長短や方向に注意しながら、文字を正しく書いている。 ・「日」「山」「川」の成り立ちを知り、丁寧に書いている。 ・今までに学習した知識・技能を生かして書いている。

教科	単元名・教材名	評価規準
算 数	かずとすうじ	【知・技】10までの数の数観念、よみ方、かき方、数系列、大小を理解している。 【思・判・表】ものの集まりをとらえ、数を数え、数を表す考え方を身につけている。 【態】身のまわりの10までの数に親しみを持って関わり、個数を数で表すよさや学ぶ楽しさを感じている。
	なんばんめ	【知・技】数が順序を表す場合に用いられることを理解し、「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばを正しく用いて、ものの順番や位置を数で表すことができる。 【思・判・表】「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばに着目し、数を用いてもものの順番や位置を表すことを考えている。 【態】これまでの体験をもとに、順番や位置に親しみを持って関わり、順序や位置を数で表すことのよさや学ぶ楽しさを感じている。
	いくつといくつ	【知・技】10までの数の合成・分解と、10の補数関係を理解している。0について理解し、「1つもない」ことを0と表現できる。 【思・判・表】1つの数をほかの数と関係づけて見ている。 【態】これまでの体験をもとに、10までの数の合成・分解に親しみを持って関わり、数構成の仕組みのよさや学ぶ楽しさを感じている。
	いろいろな かたち ※さんすう みつけた！	【知・技】身のまわりにある立体の観察を通して、形の特徴をとらえたり、なかま分けしたりすることができる。 【思・判・表】身のまわりのものを、色や大きさ、材質に関係なく、形としてとらえている。 【態】これまでの体験をもとに、身のまわりにある立体図形に親しみを持って関わり、形の特徴に目をつけるよさや学ぶ楽しさを感じている。
	ふえたり へったり	【知・技】数量の増減に着目し、「ふえた」「へった」ということばで話をしたり、数図ブロックを操作したりして、増減の意味を理解している。 【思・判・表】増減の意味を具体的な事象や操作と関連づけて考えている。 【態】数量が「ふえたり」「へったり」する事象に親しみを持って関わり、ブロックを使って数量を表すよさや学ぶ楽しさを感じている。
	たしざん（1） ※ふくしゅう	【知・技】たし算が用いられる場面やたし算の記号と式について知り、合併や増加の場面をたし算の式に表し、(1位数)+(1位数)=(10以下の数)の計算をすることができる。 【思・判・表】合併や増加の場面を、同じたし算と考えている。 【態】たし算が用いられる場面に親しみを持って関わり、たし算の式に表すよさや学ぶ楽しさを感じている。
	ひきざん（1） ※かずしらべ ※ふくしゅう	【知・技】ひき算の記号や式のよみ方、かき方、計算の仕方を理解し、求残、求部分、求差の場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができる。 【思・判・表】求残、求部分、求差の場面を同じひき算と考えている。 【態】ひき算が用いられる場面に親しみを持って関わり、ひき算の式に表すよさや学ぶ楽しさを感じている。
	10より おおきい かず ※ふくしゅう ※なんじ なんじはん	【知・技】20までの数について、数の構成や系列、大小関係を理解するとともに、よんだり、かいたりすることができる。何時・何時半の時刻の読み方を理解し、時刻をよんだり文字盤で表したりすることができる。 【思・判・表】10をこえる数を「10といくつ」ととらえたり、数構成にもとづいて加減計算の仕方を考えたりしている。 【態】身のまわりの20までの数に親しみを持って関わり、「10といくつ」で表したり工夫して数えたりするよさや学ぶ楽しさを感じている。

生 活	きょうから1ねんせい	【知・技】入学前から、すでに知っていることや自分でできていることに気付いている。 【思・判・表】入学前の経験と比べて、小学校生活でやってみたいことを考えたり伝え合ったりしている。 【態】期待と安心をもって、学校生活を過ごすことができるようにする。
	わくわくどきどき しょうがっこう	【知・技】学校生活はさまざまな人や施設と関わっていること、一緒に生活する楽しさ、学校生活でのきまりやマナーを守ると気持ちよく過ごせることがわかっている。 【思・判・表】学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守ってくれている人々を意識して、関わっている。 【態】学校の施設の様子、学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々に関心をもち、楽しく学校生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとしている。
	きれいに さいてね わたしの はな	【知・技】アサガオなどを育てる活動を通して、植物に合った世話の仕方や、植物が同じように生命をもっていることや成長していることに気付いている。 【思・判・表】アサガオなどを育てる活動を通して、植物が育つ場所、成長の様子に関心をもち、働きかけている。 【態】アサガオなどを育てる活動を通して、植物に親しみをもち、大切にしようとしている。
	きせつと なかよし はる なつ	【知・技】春や夏の自然の中で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、自然の様子や季節の変化、季節によって生活の様子が変わること、自然遊びの面白さや自然の不思議さ、野原や公園のルールやマナーを守って遊ぶことに気付いている。 【思・判・表】春や夏の自然の中で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、春や夏の違いや特徴を見付け、遊びや遊びに使うものを工夫してつくっている。 【態】春や夏の自然の中で遊んだり自然物を使って遊んだりする活動を通して、季節を生活に取り入れ、みんなと遊びを創り出そうとしている。
	なかよく なろうね 小さな ともだち	【知・技】動物や虫などを育てる活動を通して、生きものに合った世話の仕方や、生きものが自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気付いている。 【思・判・表】動物や虫などを育てる活動を通して、飼育している生きものの変化や成長の様子に関心をもち、働きかけている。 【態】動物や虫などを育てる活動を通して、生きものへの親しみをもち、大切にしようとしている。

音 楽	うたって うごいて みんなで おんがく	【知・技】曲想と旋律や拍など音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付いている。思いに合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌う技能を身に付けている。 【思・判・表】拍、速度、旋律、リズム、強弱、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもったり、曲の楽しさを見いだして聴いたりしている。 【態】歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。
	はくと リズム ※にっぽんのうた みんなのうた 「うみ」	【知・技】思いに合った表現をするために必要な、互いの声や音、伴奏を聴き、拍に合わせて歌ったりリズム打ちしたりする技能や、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。 【思・判・表】リズムや拍などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについての思いをもったり、音遊びを通して音楽づくりの発想を得たりしている。 【態】拍に合わせていろいろなリズムで表現したり歌ったりする学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。
	どれみと なかよし	【知・技】音高を体などで表現する活動を通して、階名で模唱したり暗唱したりする技能を身に付けている。 【思・判・表】音階、旋律、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。 【態】階名で表現したり、体などを動かしながら歌ったりする学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

教科	単元名・教材名	評価規準
図工	全単元を通して	【知・技】クレヨン・パス・絵の具・油粘土・粘土ペラ・はさみ・のり・紙等の材料や道具に十分になれるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。 【態】それぞれの単元を通して、その活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。
	どんどんかくのは たのしいな	【思・判・表】いろいろな形や色などを基に、自分のイメージをもつ。
	ねんどでごちそう なにつくろう	【思・判・表】「ごちそう」から感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形を選んだり、いろいろな形を考えたりにしながら、どのように表すかについて考える。
	ちよきちよきかざり	【思・判・表】切った紙の形や色から感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりにしながら、どのように表すかについて考える。
	やぶいたかたちから うまれたよ	【思・判・表】紙を破いたりちぎったりした感触や、紙の形や色から感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりにしながら、どのように表すかについて考える。
	おって たてたら	【思・判・表】立たせた紙から感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりにしながら、どのように表すかについて考える。
	カラフルいろみず	【思・判・表】色水の色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考える。
	いっしょにあそぼう ばくばくくん	【思・判・表】材料の感じや動かしたときの様子を見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりにしながら、どのように表すかについて考える。
	せんせいあのね	【思・判・表】生活の中で感じたことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりにしながら、どのように表すかについて考える。
	いっしょにおさんぽ	【思・判・表】散歩に出かける様子を想像したことから表したいことを見付け、好きな形を選んだり、いろいろな形や色を考えたりにしながら、どのように表すかについて考える。

体育	マットを使った運動遊び ※体ほぐしの運動遊び ※鬼遊び	【知・技】マットに背中や腹をつけて揺れたり、いろいろな方向に転がったりすることができる。 【思・判・表】複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んだり、動物に変身して行う運動遊びの中から動物の動きを選んだりしている。 【態】転がったりするときなどに、危ないものが無いか、近くに人がいないか、器械・器具が安全に置かれているかなどの場の安全に気を付けている。
	かけっこ・リレー・ハードルリレー	【知・技】かけっこ・リレーの行い方がわかる。 【思・判・表】感想や走り方のポイント、友達のよい走り方を書いたり、発表したりして友達に伝えている。 【態】走る場所に危険物が無いか、友達とぶつからない十分な間隔があるかなどの場の安全に気を付けている。
	表現・リズム遊び	【知・技】表現遊びの行い方がわかる。 【思・判・表】友達のよい動きを見付けたり、考えたりにしたことを発表などで友達に伝えている。 【態】表現遊びに取り組む際に、誰とでも仲よくしている。
	体づくりの運動遊び	【知・技】多様な動きをつくる運動遊びの行い方がわかる。 【思・判・表】友達の動きを見て見付けたよい動きや、行ってみて楽しいと感じた運動遊びの行い方を友達に伝えている。 【態】順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしている。
	鬼遊び	【知・技】相手（鬼）にタッチされないように、空いている場所を見付けて、速く走ったり、急に曲がったり、身をかかわしたりすることができる。 【思・判・表】楽しく鬼遊びをするための遊び方や規則の中から、自分の力に合った遊び方や規則を選んでいる。 【態】順番や規則を守り、誰とでも仲よくしている。
	水遊び	【知・技】水につかっただけの電車ごっこや鬼遊びなどで、水の抵抗や浮力に負けないように、自由に歩いたり走ったり、方向を変えたりすることができる。息を吸って止め、全身の力を抜いていろいろな姿勢で浮くことができる。 【思・判・表】友達の水の中でのよい移動の仕方やもぐり方・浮き方を見付けたり、考えたりにしたことを友達に伝えている。 【態】順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしている。
	多様な動きを作る運動遊び ※すもう学習	【知・技】人を押す、引く、運ぶ、支えるなどしたり、力比べをしたりするなどの動きで構成される運動遊びを通して、力を出しきったり、力を入れたり緩めたりする力試しの動きを身に付けることができる。 【思・判・表】友達の動きを見て見付けたよい動きや、行ってみて楽しいと感じた運動遊びの行い方を友達に伝えている。 【態】順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしている。